

## 庚申塔調査第5回記録 2019年 6月20日

### 1. 桂柄天神参道

#### A 既存資料データ

##### (1) 駒型字塔

正面 日月 青面金剛童子

右面 嘉永元年 戊申九月吉日造立

猿なし  $26 \times (61 + \text{台 } 21)$   $27 \times 59$

台石 左治右衛門 源左衛門 伝右衛門 仁右衛門 市郎右衛門 伊兵衛  
人名

##### (2) 駒型字塔

正面 青面金剛童子 上辺日月 下辺壇正面三猿(みいき)

右面 文政七年 歳次甲申 盛夏甲申日立之

左面 一乗院現慈童

台石 当所講中 ○田八兵衛 以下不明 人名

$27 \times (48 + \text{猿 } 21 + \text{台 } 21)$   $27 \times 70$

##### (3) 駒型字塔

正面 庚申供養塔 日月 猿なし

右面 寛政八丙辰年

左面 十一月吉日

$25 \times (59 + \text{台 } 18)$   $25 \times 58$

##### (4) 尖頭角柱

正面 庚申供養塔 下部に造立者 6名

長右衛門 徳左衛門 伊左衛門 六右衛門 与右衛門 平右衛門

右面 元文五庚申 十二月大吉日

左面 久供養志 二組講中

$24 \times (57 + \text{台 } 14)$   $25 \times 58$

##### (5) 駒型

正面 上辺日月浮彫 青面金剛像 合掌 六臂 三猿(いみき)

右面 寛政十二庚申年 九十月吉日

台石に6名

$29 \times (53 + \text{猿 } 17 + \text{台 } 17)$   $29 \times 68$

## (6) 駒型駒形字塔

正面 猿田彦大神 塔身下三猿(み?きい?)

右面 明治三十二三十三年一月

左面 月日 城田久次郎建之

台 三猿(いきみ?)

27×(40+猿 19+台の猿 20) 27×58

## B 調査記録

「木村」と「堀」では庚申塔の説明の順番が異なる(「木村」は型をまとめているが「堀」は位置順)ので、既存資料データとしては位置順の「堀」に準じた。また、庚申塔の取り違えなどが目立ち複雑となるので本体と台石に分けて記載した。

### B1 本体

塔のサイズについては、「木村」と「堀」とで誤差の範囲である。

- (1) の駒型字塔について、「木村」には日月の記載はあるが、「堀」にはなし。現認すると日月があるので「木村」が正しい。
- (2) の駒型字塔右面において、「木村」「堀」ともに「盛夏甲申」と読んでいるが、現認すると「孟夏甲申」のように読める。左面について、「木村」には洩れているが「堀」には「一乗院現慈竜」と刻印されているとある。現認すると存在するので「堀」が正しい。
- (3) の駒型字塔については相違なし
- (4) の尖頭角柱について「堀」は、具体的人名は省略しているが「木村」には記載している。現認すると、「木村」では「長右衛門」とあるものが、実際は「長左衛門」。
- (5) の駒型について正面は各調査ともに一致。右面において「木村」においては「九月」と記載し、「堀」は「十月」と記載している。現認すると十月である。
- (6) 「木村」は駒型字塔とし「堀」は駒型としているが、駒型字塔が正しい。右面造立年は「木村」は明治 33 年としているが、現認すると明治 32 年が正しい。また、左面に日月があると「木村」には記載してあるが、実際には確認できなかった。造立者の名前は「堀」のとおりある。ただし、「城田久次郎建之」の久は疑問である。

### B2 台石

台石の記載については混乱が見られる。「木村」にも記載してあるとおり、庚申塔本体と台石の組み合わせはバラバラとなっているが、それ以降に調査したであろう「木村」の調査でも記録におかしな点がある。「堀」は単に人名の有無を記載しているだけで、具体的人名には触れていない。

- (1) 嘉永元年塔の台石

6 名の名前が記載されていると「木村」に記載されているが、現認すると

曾右衛門、○右衛門、政衛門、治良兵衛、平左衛門、久左衛門、作兵衛

と読むことができた。これらの一連のリストに相当するものは「木村」には記載されていない。「堀」は単に6名の人名と記載しているのみ。

(2) 文政七年塔の台石

「木村」では、当所講中 ○田八兵衛 以下不明 と記載されているが、読んでみると 當村講中、久左衛門、藤兵衛、作右衛門、又右衛門、鐵五郎、万蔵 と読むことができた。当所講中と當村講中とではある程度類似しているが○田八兵衛の名はなく、それ以降の名も比較的鮮明に読むことができたので、「木村」が何を讀もうとしていたのか不明である。「堀」は単に人名と記載しているのみ。

(3) 寛政八年塔の台石

台石には人名の記載なしで各資料・現認で一致

(4) 元文五年塔の台石

「木村」では6名列記 「堀」では6名とのみ記載。現認すると、ほぼ木村に類似した氏名が確認できた。

長左衛門 徳左衛門 伊左衛門 六右衛門 与右衛門 平右衛門

ただし、「木村」では長右衛門とあるが、現認では長左衛門が正しい。

(5) 寛政十二年塔

「木村」では人名の記載なしであるが、現認すると、「木村」では嘉永元年塔の台石の人名として記載されている6名の人名と類似した人名が確認できた

左治左衛門 源左衛門 伝右衛門 仁右衛門 市郎左衛門 伊兵衛

ただし、仁右衛門は仁左衛門 市郎右衛門は市郎左衛門 が正しい。「堀」は6名とのみ記載

(6) 明治三十二年塔の台石

台石には人名なしで各資料、現認で一致

## 2. 大蔵稻荷参道入口

### A 既存資料データ

(1) 自然石

正面 猿田彦太神 台石 大蔵講中 十人読めず

大蔵町講中 大邑喜助 高木新七 市澤与一 田中栄治 石井富次郎 立川半兵衛  
黒川惣助 石渡平左衛門 荒井伊兵衛 小林林蔵

裏面 弘化二年乙巳九月吉日

56×(81+台 18) サイズ記載なし

(2) 角柱

正面 庚申塔

右面 安政二乙卯歳 左側面 仲春 吉日

29×(61+台 22+台 18) 29×62

(3) 庚申塔としては扱わず 自然石

正面 妙見大菩薩

左脇 ○氏立之 岡本○立

裏面? 慶応二年丑寅五月吉日?

$67 \times (62 + \text{台 } 20)$  サイズ記載なし

(4) 角柱

正面 庚申塔

右面 安政七庚申年二月十五日

台石 当所願主? 8名

村田徳兵衛 小林林蔵 石渡平左衛門 黒川惣助 石井富蔵 市澤吉五郎

大村兵左衛門 石川忠兵衛 細野仙蔵

$24 \times (52 + \text{台 } 19 + \text{台 } 16)$  34 × 50

(5) 駒型

正面 庚申塔 月日 山壇 三猿(い?きみ?) 造立者 8人

細井金次郎 岡本○○○ 大森喜助 市澤与市 鈴木清兵衛 石井富次郎

黒川惣助 石渡平吉

右面 天保三壬辰年 正月吉日

$27 \times (52 + \text{台 } 19 + \text{台 } 20)$  27 × 64

(6) 駒型

正面 庚申塔 月日

右面 慶応二寅六月吉日

台 三猿(み?きい)

$25 \times (56 + \text{台 } 16)$  24 × 56

(7) 駒型

正面 庚申塔

台石 奉納(横書き)

$25 \times (55 + \text{台 } 16)$  サイズ記載なし

(8) 庚申塔外 舟型

正面 馬頭観音像

左脇 文政二年正月十一日

$28 \times (63 + \text{台 } 17)$  サイズ記載なし

B 調査結果

サイズについて、すべて計測したわけではないが、だいたい「堀」の記載通り。

- (1) の自然石について、「堀」は造立者を読めないとしているが、実際は「木村」の記載とおりはっきり読める。
- (2) の角柱について、「木村」に左側面と記載されている「仲春吉日」は、実際は右側面の安政二乙卯歳の左側に記載されており、「堀」が正しい。他は既存資料通り
- (3) は庚申塔でないので調査から省略
- (4) の角柱は記載通り
- (5) の駒型について「木村」に記載されている造立者名のうち、細井金次郎は細野金治郎、大森喜助は大邑喜助 と読める。他は記載通り
- (6) の駒形は記載通り
- (7) の駒形は記載通り
- (8) の馬頭観音像は庚申塔外なので調査対象外。本体が台石から外されていた。

以上